

## 第2 【事業の状況】

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
塗料関連事業	1,773,877	△13.2
自動車製品関連事業	3,059,732	△30.4
合計	4,833,609	△24.9

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 受注実績

当グループは受注による生産は僅かであり、主として見込生産によっておりますので、受注ならびに受注残高について特に記載すべき事項はありません。

#### (3) 販売実績

当第2四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
塗料関連事業	2,756,056	△15.8
自動車製品関連事業	4,063,357	△33.8
合計	6,819,414	△27.6

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前第2四半期連結会計期間		当第2四半期連結会計期間	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
㈱中外	1,830,974	19.5	1,142,644	16.8
本田技研工業㈱	1,165,060	12.4	737,807	10.8

- 3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 2 【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、財政状態、経営状態及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

#### 4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において、当社グループ（当社及び連結会社）が判断したものであります。

##### (1) 業績の状況

当第2四半期連結会計期間におけるわが国経済は、政府が進める景気対策を下支えにした個人消費や生産活動の一部に回復の兆しが見られたものの、設備投資の減少や雇用環境の悪化など、依然として厳しい状況で推移しました。

このような厳しい事業環境のもと、当社グループでは、顧客ニーズに合致した環境対応型製品や価格競争力のある新製品の開発に取り組むとともに、積極的な受注活動に努めてまいりました。また、全社をあげての原価低減活動と固定費削減など、収益改善に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間の売上高は、前年同期比27.6%減の68億1千9百万円となりました。

損益につきましては、徹底したコスト削減により営業利益は、前年同期比56.0%増の9千4百万円、経常利益は、持分法投資利益の減少等により前年同期比46.1%減の2億2千6百万円となり、四半期純利益は、前年同期比58.9%減の1億4千2百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

##### ① 塗料関連事業

当部門につきましては、昨年秋以降の世界同時不況のピークは超えたと思われるものの、塗料業界ではまだまだ沈静化せず、また一部では梅雨明けが8月までずれ込んだことなど、需要減少の影響を受け、売上高は前年同期に比べ減少しました。

品種別売上高では、合成樹脂塗料は、内外装用塗料のますます激化する価格競争の中で、屋根用塗料を中心に前年同期比0.6%減少しました。床材・舗装材は引き続き公共施設物件や民間設備投資の大幅減少の影響で前年同期比30.4%と大きく減少しました。防水材についても、当社の主力製品であるウレタン防水は安定した売上にあるものの、前年9月に製品のタイプ切替え受注増の影響もあり、前年同期比では7.1%減少しました。

工事関連につきましては、マンション等の改修工事の不服感もあり、前年同期比31.0%の減少しました。

この結果、当部門の売上高は27億5千6百万円（前年同期比15.8%減）、営業利益はコスト削減により7千8百万円（前年同期比164.1%増）となりました。

##### ② 自動車製品関連事業

当部門につきましては、自動車メーカーの在庫調整が一段落したことや、世界各国での自動車販売奨励策や環境対応車への買い換え優遇税制等の効果もあり、国内自動車生産台数は回復傾向にありますが、まだ本格的な回復基調には至っておりません。

品種別売上高につきましては、吸遮音材は、超軽量防音システム部品「リエタ・ウルトラライト」の市場シェアは堅調であります。制振材は、軽量化や塗布型への切替えによる減少で前年同期比48.4%減少しました。防錆塗料は、水系塗布型制振材や耐チップング塗料、車体シーリング材の採用は拡大しておりますが、前年同期比31.6%の減少となりました。

この結果、当部門の売上高は40億6千3百万円（前年同期比33.8%減）、営業利益は1千6百万円（前年同期比46.8%減）となりました。

##### (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ1億1千1百万円増加し、344億1千2百万円となりました。主な増減要因は、売上債権の増加や株式相場の上昇による投資有価証券の増加や有形固定資産の減少によるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ2億1百万円減少し、179億2千7百万円となりました。主な増減

要因は、買掛金の増加や借入金の減少によるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ3億1千2百万円増加し、164億8千4百万円となりました。主な増減要因は、自己株式の取得による減少やその他有価証券評価差額金などの評価・換算差額等の増加によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、12億9千2百万円と前連結会計年度末に比べ3億6千7百万円の減少となりました。

営業活動による資金は、8億7千9百万円の収入（前年同期比1千9百万円増加）となりました。この主な要因は、減価償却費5億4千6百万円、仕入債務の増加による収入3億4百万円などによるものです。

投資活動による資金は、2億8千1百万円の支出（前年同期比1億3千3百万円減少）となりました。この主な要因は、有形固定資産の取得2億7千2百万円の支出によるものです。

財務活動による資金は、5億5千8百万円の支出（前年同期比2億6千7百万円減少）となりました。この主な要因は、短期借入金の減少12億1千万円、長期借入による収入8億円、長期借入金の返済による支出1億3千7百万円などによるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結会計期間の研究開発費の総額は2億4百万円であります。